

リファイニング建築を語る



生徒の質問に答える青木氏

大分工業高校は17日、同校出身でリファイニング(再生)建築の第一人者、青木茂氏(株)青木茂建築工房主宰、工学博士)を招いて、講演会を開いた。外部講師招へい授業の一つで、建築科の1〜3年生約120人が受講した。青木氏自身が手掛けた、福岡県大野城市の光ビル、同県八女市の多世代交流館、佐伯市蒲江の「海の資料館(時間の船)」、福岡

第一人者の青木茂氏

母校の大分工業高で

市農協本店ビル、などの設計から建設途中、完成前と完成後の写真、設計図や3D図面を使って分かりやすく説明。

その中で、リファイニング建築は、古い建物を見て、頭の中で出来上がりイメージすること、広い空間をどのように使うかという空間のとらえ方、デザインと耐震補強の組み合わせをいかにうまくするかが重要。「再生工事は、複雑な事情などもあり、現場は常にドラマチックだ」と話した。生徒たちに対し、「イン

ターネットの普及で情報のグローバル化が進み、地域の格差はなくなったので、何事にも挑戦できる。リファイニング建築の最終

目標は、後継者の育成。古いものを理解し、それを未来へつなげていく教育が必要」と、後輩への期待も込めてメッセージを送った。生徒代表が「これから進むべき道を示していただき、大きな励みになりました」とお礼を述べた。

青木氏は同校建築図書室に、著書を寄贈した。同氏は、約25年にわたり、

独自に再生建築の定義を確立し「リファイニング建築」の名称で、全国の再生建築に取り組み。従来からの「リフォーム」「コンバージョン(改装・転換)」「大規模修繕」などと異なる、建設計画の機能を失いつつある既存建物を再生し、短期的な耐震改修だけでなく、長期的視点に立った新築以上の付加価値を付けて変身させている。首都大学東京戦略研究センター教授、同特任教授など歴任、次代を担う後継者育成にも積極的に参加している。(大嶋)